

災害拠点病院・災害拠点連携病院の機能強化に関する検討について

1 平成30年に発生した災害の被害状況等について

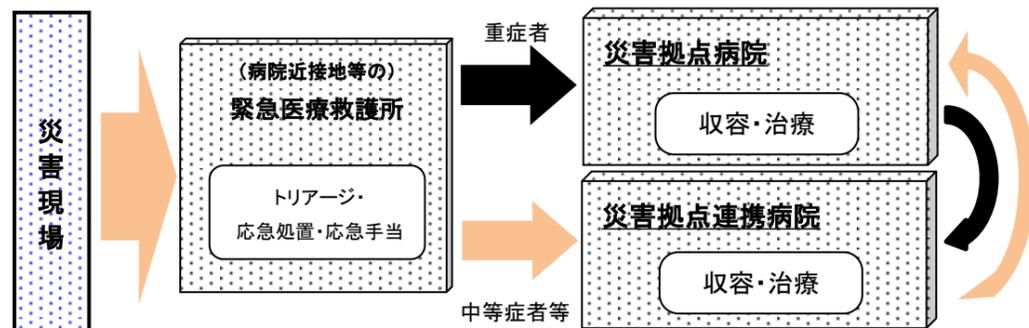
※平成30年10月29日現在までの内閣府及び厚生労働省プレス資料より抜粋

項番	災害	災害の概要	ライフライン等の状況	医療施設の状況
1	大阪府北部を震源とする地震	【日時】6月18日 7時58分 【震源】大阪府北部 最大震度6弱 (大阪市北区他4市) ※死者4人、重症15人、軽症419人	<ul style="list-style-type: none"> 最大17万件の停電(6月18日10:43時点 解消) 最大約21万件で断水又は減圧給水(6月19日までに解消) 石油は通常出荷可能。ただし、一時運転停止製油所あり。 	<ul style="list-style-type: none"> 高架水槽の破損による水漏れ(3病院)、水道管破裂(1病院) 天井や壁の一部崩落(4病院)、エレベーター停止(多数) 人工補助心臓使用患者等の転院対応(1病院)
2	平成30年7月豪雨	【日時】6月28日から7月8日 <ul style="list-style-type: none"> 総雨量は、四国地方1800ミリ、東海地方1200ミリ超と、7月の月降水量の2~4倍 48時間雨量、72時間雨量等が中国・近畿地方など多くの地点で観測史上1位を記録 ※死者224人、行方不明8人、重症109人、軽症315人	<ul style="list-style-type: none"> 16府県で最大約46,290戸が停電 全国18都道府県80市町村で最大263,593戸の断水 西日本を中心に床上・床下約39,000戸が浸水 	<ul style="list-style-type: none"> 最大で95の医療機関で断水、停電が発生 7月17日時点で、47の医療機関で断水が解消されなかった
3	平成30年台風21号	【日時】9月4日12時頃 <ul style="list-style-type: none"> 非常に強い勢力で徳島県に上陸、その後、速度を上げながら近畿地方を縦断 四国や近畿地方では猛烈な風や雨、観測記録を更新する記録的な高潮 ※死者14人、行方不明8人、重症46人、軽症897人	<ul style="list-style-type: none"> 8つの電力会社で最大2,605,570戸が停電 11府県56市町村で最大16,490戸が断水 強風で製油所の冷却タワー破損、一部停止あり 	<ul style="list-style-type: none"> 最大で157の医療機関で停電、23の医療機関で断水が発生(9月9日までは解消)
4	平成30年北海道胆振東部地震	【日時】9月6日 3時07分 【震源】胆振地方中東部 最大震度7(厚真町) ※死者41人、重症18人、軽症731人	<ul style="list-style-type: none"> 最大295万戸が停電(停電復旧済み、詳細日時記載なし) 最大68,249戸が断水(10月9日までに解消) 	<ul style="list-style-type: none"> 最大349病院(うち、災害拠点病院34病院)で停電、9月9日に解消 最大62病院(災害拠点病院なし)で水使用不可、9月11日に解消

国は災害拠点病院の指定要件に、新たに燃料に関する協定項目を追加(平成30年9月5日付)

2 東京都の災害医療体制の現状

<災害時における医療救護活動の流れ> (主に超急性期まで)



区分	災害拠点病院 (82病院)	災害拠点連携病院 (137病院)
整備指 定基 準	<ul style="list-style-type: none"> 通常時の6割程度の発電容量のある自家発電機等を保有し、3日分程度の燃料を確保しておくこと 被災後、早期に診療機能を回復できるよう、業務継続計画(BCP)の整備を行っていること 災害対応マニュアルを有すること 等 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に病院機能を維持するため自家発電機等を保有し、電源の確保が行われていること 等 災害対応マニュアル及び事業継続計画(BCP)を有すること

災害時に医療機関が役割に応じた活動を行うことができれば、一部の病院に傷病者が集中し、円滑な医療救護活動を行うことができない

<災害拠点病院・災害拠点連携病院への調査>

※平成30年8月実施

【目的】

熊本地震等の災害において、医療機関の自家発電設備の不稼働があったことから、災害拠点病院等が抱える課題等を把握する

【対象】

災害拠点病院(82病院)、災害拠点連携病院(137病院)

【調査内容】

災害拠点病院：自家発電設備の浸水対策 揺れ対策 等
災害拠点連携病院：自家発電設備の状況、自家発電設備の浸水対策 揺れ対策 等

【回答結果】

○自家発電設備の出力数が通常の6割を確保できる災害拠点連携病院

- 確保できる 80病院(58.4%)
- 確保できない 54病院(39.4%)
- 不明 3病院(2.2%)

→確保できると答えた80病院のうち、72時間の燃料確保

- 確保できる 16病院
- 確保できない 63病院
- 不明 1病院

⇒自家発電設備の出力数が通常の6割、72時間燃料確保ができていないのは、137病院のうち16病院(11.7%)

○地下に自家発電設備を設置している医療機関の浸水対策 及び揺れ対策の実施状況

(自家発電設備又は配管等に対する地震の揺れによる損傷への対策)

区分	数	浸水対策 (複数回答)					浸水対策不要
		防水板	土嚢	高基礎	整備無	その他	
拠点	44	14	19	3	7	4	15
連携	20	2	7	1	10	2	0

区分	数	揺れ対策		
		対策済	未対策	未確認
拠点	82	46	20	16
連携	137	32	26	79